

協 議 会 議 事 録	
会議名	平成21年度 第1回江田島市公共交通協議会
日 時	平成21年7月7日(火) 15:00~17:00
出席者	別紙出席者名簿
1 開 会	
事務局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	あいさつ
3 委員の紹介	
出席委員	自己紹介
4 議 題	
(1) 協議会の規約等について	
事務局	資料1により説明
委 員	①規約第4条の13について「広島県警察江田島警察署長が指名するもの」に修正して欲しい。 ②第7条について、会議が成立する出席者数を設定しておいた方がよい。 ③この協議会の根拠となる「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」では、この協議会で協議が整った場合は公安委員会の意見照会を省くこととなっているが、公安委員会所掌事務については、一度持ち帰らせて欲しい。
事務局	①・②については、ご意見の方向で検討させていただく。 ③については、その都度調整させてほしい。
委 員	他市町の協議会においても、③の意見は多く出ているが、協議の中で強引に進めるということは考えられないし、またその事例も無い。
委 員	規約第4条の委員について、江田島市においては学校統合などにより、生徒の移動も交通の中で重要な位置づけであるため、PTA等学校関係者も含めてはどうか。
事務局	オブザーバー等で議論に加わることができる体制にする。
(1) 承 認	
(2) 議長等の選任について	
事務局	説明
委 員	野原委員を議長に推薦
議長は野原委員ということで承認	
議 長	監査委員に小方委員を選任

第1回江田島市公共交通協議会（H21.7.7）

（3）地域公共交通活性化・再生総合事業の活用について	
事務局	資料2により説明
委員	継続課題の路線バスの効率化について、他市町では、スクールバスや福祉バスも含めて検討しているが、江田島市にはスクールバスや福祉バスはあるのか。
事務局	福祉関係のバスは無い。スクールバスについては、路線バスが利用できない地域のみ運行している。
委員	この協議会ではそのことは議論しないのか。
事務局	そういった意見が出れば議論を行う。
委員	計画策定のスケジュールが非常にタイトである。できるだけ前倒しで取り組んでいった方がよい。
事務局	できればそうしていきたい。
委員	旅客船の状況は、高速道路の値下げ等で既に非常に厳しい状況である。対応は出来るだけ早くして欲しい。
議長	そのように事務局には頑張ってもらいたい。
（4）地域公共交通総合連携計画策定業務委託について	
事務局	資料3により説明
委員	前回の交通計画策定の時などと調査が重複しないように注意して欲しい。
委員	業者で集まって問題点を出し合える機会を持って欲しい。
事務局	本日の会議後出来るだけ早い段階で各分科会を開催したいと考えている。
（5）平成21年度歳入歳出予算について	
事務局	資料4により説明
委員	今回の協議会は4年間だと説明されていたが、4年で2,000万円の補助ということか。それとも1年毎か。
委員	今年度行う調査事業が定額で上限が2,000万円である。そして来年度以降の3年間の計画事業に対して、事業費の1/2補助がある。
委員	計画の内容については、どういったことを誰がいつ行うかを今年度決めて、来年度以降、予算の範囲の中で最大1/2補助させてもらう。

第1回江田島市公共交通協議会 (H21.7.7)

委員	コンサルタント会社の調査業務は非常に重要である。このあたりでそういった会社は何社くらいあるのか。
事務局	何社あるかの数字をまとめたものはないが、この活性化再生事業で昨年度調査事業を行った市町も県内にいくつかあるので、そういった類似業務の実績を広く調べる。
5 意見交換	
委員	先程コンサル業務が重要であるという意見があり、選定委員として担当するのは荷が重いなと思っているところであるが、得てしてこういった調査業務などは、コンセプトがしっかりしていないと通りいっぺんになる場合が多い。現状の資料を見るとコンセプトが曖昧になっているのが少し怖いところなので本当に何を知りたいのかよくよく詰める必要があると思う。問題点をどうとらえるか。
委員	このような会議に出席する場合、よく言わせていただいているが、何の問題があるのかということが一番大事である。利用者はより安価でより便利に、自治体は予算の制限があり、その妥協点、妥結点を見出すのが、会議の目的である。 市としての方針があると思うので、たとえば1億円の負担を半分に減らすとか、負担を倍にして利便性を上げるとか10年先、20年先でもここに住みたいと思えるようなビジョンをこの1年をかけて探って欲しい。
委員	私の意見は、今までの各委員の発言に含まれているが、地域住民の生活の足をいかに担うかが私共のテーマであり、バス事業も黒字にすることを目標にはしなければいけないが、いかに赤字を増やさないようにするかというところで苦労している状況である。 島嶼地域として、船とバスとの関わり合いが非常に重要であり、利用者の利便性を第1に考え、総合的に考えていって欲しい。
委員	他の女性会の会長とも話をしたが、船とバスとの連絡が悪い所がある。また、待合施設の整備も必要ではないかと思う。
委員	この4月1日のバスのダイヤ改正により、船との接続は概ね確保している。
委員	この島では、海上交通に活気が出ないと駄目になってしまう。便数が増えるなど利便性が上がれば、それに付随して、タクシー事業などにも活気が出る。
委員	利用者の意見を踏まえつつ、事業者の状況もよくなればいい。 特に市企業局と芸備商船の航路を効率的にできればいいと思う。 第2音戸大橋についても、交通の流れが変わるため、今後の検討課題となる。 広島市がこの事業を活用して、パスピーを導入している。船への導入は今のところ島嶼部地域では無いので、すべて1枚のカードで済ませるような整備も課題である。 バスがそのまま船に乗り込み広島市内まで乗継無しでいけるような路線も考えられるのではないか。当事業で社会実験もできるので考えてもいいと思う。
6 その他	
7 閉会	